

建築主：M氏
 設計：川嶋彦一郎アトリエ+ラムラックス 株式会社
 施工：岡田土建株式会社
 所在地：銚子市

太平洋を東に望む大地の家と、グローバルな暮らし

海と大地の家 ジオグラフィックハウス



犬吠埼を望む

太平洋の波に洗われる銚子の海辺の岩場に、想像を絶するプロセスを経て、他に再現し難い住まいができた。いわば海と大地の際に一体化された鉄筋コンクリートの隠れ家だが、その物語はただものではない。

グローバルに活躍するフランス・ブルターニュ出身のケルト系フランス人が施主だったことが、ユニークな物語の発端であった。日の入りの大西洋と日の出の太平洋を愛で、住まいの日常と常識の殆どから開放された地平に自由に暮らす。懇意の一人の建築家が、海岸の土地の手当てや建築許可を得るための前さばきの段階から全面的にサポートすることで、その実現が可能となった。

広大な敷地は海岸沿いを走る県道に面しているが、その道路から海側に見えるのは岩場の崖と砂浜、そして海原だけである。ようやく日が沈む頃、トップライトや開口の隙間から明かりが漏れてくる。それ以外は屋根の上も荒々しく緑化され、そこに住まいがあることなどまず



日の出前

気付くことはない。一方、随所に角が丸められたインテリアのプランも自由気ままで、浴室や寝室を含めことのほか有機的かつモダンな空間から望む太平洋は、その飽きることのない潮騒の音とともに格別であった。

恐らく、至近距離の海水と強風に晒される立地条件の生活は生やさしくないだろう。特に塩害は並の程度ではないはずだ。そんなリスクを承知の上でお余りあるおつりがくる住まいと場所性が暮らしを解き放つ。平らな所のない、ごつごつした草屋根の上を歩きながら、そうした建築文化の多様性と奥行きの可能性に想いを馳せることができたのは幸いであった。

(岩村和夫)



内観